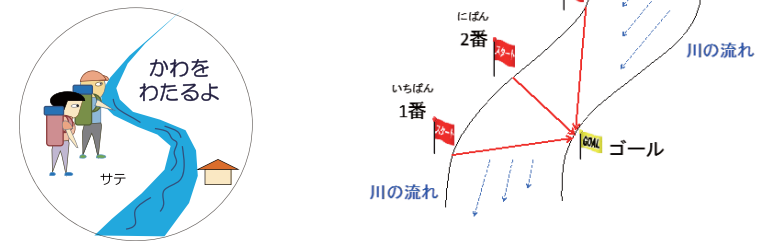


サバQ 1 河川でサバイバル

川を歩いて渡るときに、最も安全な渡り方はどれでしょうか？正しいと思うものを、次の1～3コースから選んでください。

1. 対岸の渡りたい場所よりも下流側に移動して、斜め上流に向かって川をさかのぼるように渡る。
2. 対岸の渡りたい場所の正面に移動して、川を横切るように渡る。
3. 対岸の渡りたい場所よりも上流側に移動して、斜め下流に向けて川を下るように渡る。



サバQ 2 斜面災害でサバイバル

雨が強く降ってきました。外の崖の様子を見に行ったところ、小さな石ころが崖からころころといくつか落ちてくるのを見つけました。さて、この後取る行動として最もよいものは次のうちどれでしょうか。

1. 石ころは小さく数も少ないので、特に気にせず家の中で過ごす。
2. 避難の準備をして行政の避難指示が出るまで部屋の中で待機する。
3. 周りの人に知らせ、安全を確保しながら避難する。



サバQ 3 地震を知ってサバイバル

災害は忘れた頃にやってくるとよく言われています。普段からの備えを心がけるようにしましょう。さて、災害への心構えとして適切なものを次の中から選んでください。

1. 市役所から配布されたハザードマップは貴重なので、大切に書棚の奥にしまっておく。
2. 京都周辺には活断層が少ないので、地震に対する備えは不要である。
3. 災害に備えて近所の避難場所を確認しておく。



サバQ 4 地盤災害に備えてサバイバル

最近、日本各地で毎年のように大規模な土砂災害が発生しています。あなたの住まいは大丈夫でしょうか？地盤に関する災害についての次の考え方のうち、正しいものはどれでしょうか。

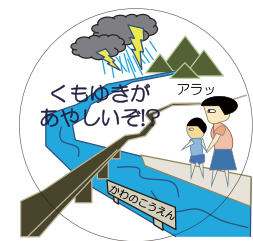
1. ひいおじいちゃんの代までさかのぼっても、この場所で災害が起こったという話は聞かないので、何も考えずに暮らしてよい。
2. 地盤に関する災害が起きるかどうかは、一般市民にはわからないので、あれこれ考えても仕方ない。
3. 住んでいる場所の地形や地質の成り立ちを勉強して、起きうる災害を想定しておいたほうがよい。強い雨が降った時や強い地震の揺れを感じたときの、とっさの行動を家族で話し合っ



サバQ 5 ゲリラ豪雨でサバイバル

川辺で遊んでいたところ、急に空が暗くなり冷たい風が吹き、遠くではゴロゴロと雷の音がしてきました。このとき、あなたがとるべき適切な行動は次のうちどれでしょうか？

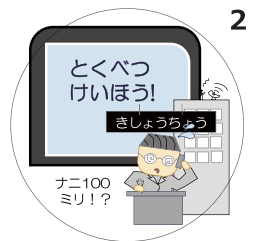
1. 川から上がり、気象の注意報・警報、雨雲レーダーなどを確認する。
2. 雨が降るまでとりあえず遊ぶ。
3. 橋の下で雨宿りしながら Twitter で状況をつぶやく。



サバQ 6 特別警報を知ってサバイバル

数十年に一度しか起きないほどの異常な大雨や暴風は、生きているうちに何度も経験するわけではありませんが、一度起きると大きな災害につながる可能性があります。このような可能性が高まったとき、気象庁から特別警報が発表されることがあります。特別警報が発表されたら、どのように対応するのがよいでしょうか。次の中から最も適切なものをひとつ選んでください。

1. 特別警報が出たからといって、すぐに災害が起こるわけではないので、しばらく様子を見る。
2. 避難場所に避難する、外出が危険な場合は建物内の安全な場所にとどまるなど、ただちに自分の命を守る行動をとる。
3. 非常時の持ち出し品を揃えて、避難に備える。



サバQ 7 地震に備えてサバイバル

大きな災害が発生して、家が壊れてしまったり、危険な状況が続いたりするときには、しばらく避難所で生活をする必要がある場合があります。したがって、そのような状況に備えて、避難所に持っていくべきものを予めリストアップし、事前に準備しておくことが重要です。次のモノのうち、避難所に持っていき必要性が特に高いものを選んでください。

1. 常用している薬
2. 機動性を高めるための自転車
3. 炊き出し用の食器



サバQ 8 竜巻でサバイバル

竜巻が間近に迫っています。次の選択肢の中で身を守るための行動として最も不適切なものは次のうちどれでしょう。

1. 屋外にいるので、大きな樹木の下に身を寄せる。
2. 屋外にいるので、丈夫な建物の物陰に入る。
3. 屋内にいるので、窓やカーテンを閉めて、テーブルの下に身を隠す。



サバQ 9 活断層を知ってサバイバル

近畿地方の内陸では、20年前の阪神淡路大震災のような活断層が起す大地震が大きな災害をもたらしてきました。次の活断層に関する記述のうち正しいのはどれでしょうか？

1. 私の家は、活断層から遠く離れ平らな土地に建っているので、地震の被害は小さいだろう。だから家の中の備えなどは特にしなくて良い。
2. 京都周辺の山や盆地は、活断層によって造られた。
3. 黄檗断層が地震を起したことは有史以来無いそうだ。ゆえに黄檗断層は活断層ではなく、今後も地震を起す心配は無い。



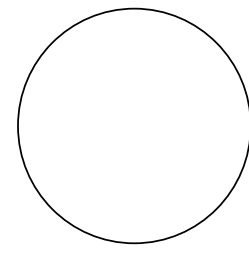
サバQ 10 揺れに備えてサバイバル

地震の揺れに備えようとしています。次のうち、まずはじめにするべきことはどれでしょう。

1. 懐中電灯の準備
2. 家具の固定
3. 防災用非常持ち出し袋の用意



サバQ 自分で作って サバイバル



サバイバルクイズ

サバQ 4 地盤災害に備えてサバイバル

答え：3

解説：住まいの土地の成り立ちを知り、その場で起きうる地盤災害を想定しておくことはとても大切です。地盤災害は斜面崩壊、土石流、液状化などいろいろな種類があり、普段からの備えや緊急時の対応がそれぞれ異なります。2014年に広島で発生した土砂災害は記憶に新しいですが、想定をはるかに超えた巨大地震や豪雨が、近年多くの地盤災害を引き起こしていることは周知のとおりです。地質や地形の詳しい情報は、インターネットで調べられる時代になりました。土砂災害危険箇所を記した詳しいハザードマップも公開されています。自らを助け、家族を守る「防災・減災マインド」をもって暮らしましょう。



サバQ 3 地震を知ってサバイバル

答え：3

解説：地震は日本のいたるところで発生しますから、京都でも普段から地震に対する備えを心がけましょう。市役所などが配布するハザードマップには、揺れやすさの情報だけでなく、近くの避難所などの情報も記載されています。いざという時のために、目の届きやすいところに置くように心がけましょう。京都は地震が少ないと思われるかもしれませんが、今から400年ほど前に慶長伏見地震（1596年）と呼ばれる大地震を経験したことがあります。



サバQ 2 斜面災害でサバイバル

答え：3

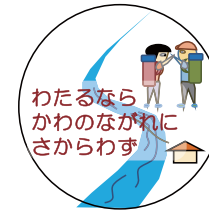
解説：大雨の際には、地盤が緩んだり地下水の圧力が高まったりし、がけ崩れ・土砂崩れの危険性があります。がけ崩れ・土砂崩れの前兆としては、斜面から流れ出る水が濁る、斜面にひびが入る、石ころが落ちてくるなどがあります。これらの前兆を見つけたら、行政の避難指示に関わらず、避難を考えましょう。ただし、避難経路の安全を確保することが必要です。例えば、豪雨によって側溝から水があふれ道路が川のようになっている場合、その位置がわからず側溝にはまってしまいう危険性があります。そのためにも、テレビ・インターネット等を利用して天気予報・アメダスなどで豪雨の危険性に関する情報を入手し、避難経路が安全であるうちに早めの避難をすることが大切です。崖の様子を見に行くこと自体、その危険性やタイミングについて十分注意が必要でしょう。



サバQ 1 河川でサバイバル

答え：3

解説：毎年、川で遊んでいるときに流されて溺れる事故が起きています。川を渡るのは危険ですから、大人と一緒に渡ってください。そして、渡る際には、水量・水流・深さを確認してから次の点に注意してください。渡り方1：深さが膝よりも浅くて流れの緩い安全な場所を選びます。そういう場所がなければ渡るのをあきらめましょう。渡り方2：できるだけ上流から下流に向かって歩くと楽に渡ることができます。

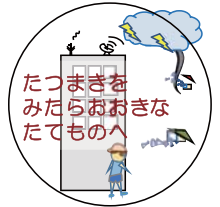


渡り方3：歩くときには足元を見ないで対岸の目標を見ながら歩くとバランスを保つことができます。渡り方4：足を踏み出すときに、滑る石や転がる石にのらないように、足の裏で川底を確かめてから踏み出すと転びません。

サバQ 8 竜巻でサバイバル

答え：1

解説：屋外にいる場合の避難箇所としては、太い樹木や電柱であっても倒壊することがあるので危険です。また、物置や車庫・プレハブ（仮設建築物）の中も危険です。できるだけ頑丈な構造物の物陰に入って、身を小さくしましょう。身を隠す場所がない場合には、地面に伏せて身を守りましょう。一方、屋内にいる場合は、窓やカーテンを閉め、窓ガラスの破片や飛散物が舞い込んでくることを可能な限り避けましょう。また、窓ガラスからできるだけ離れ、丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくしましょう。



（この問と答えは、気象庁のリーフレット「竜巻から身を守る～竜巻注意情報～」 http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tatsumaki/tatsumaki_201408.pdf をもとに作成、一部追加しました）

サバQ 7 地震に備えてサバイバル

答え：1

解説：常用している薬などは個人個人のニーズや、体に適したものであるかが異なるものです。よって避難所に共同で備蓄をしたり、救援物資として早急に届けてもらったりすることが困難な物資です。そのような物資は常に各自で備えをつくっておきましょう。



サバQ 6 特別警報を知ってサバイバル

答え：2

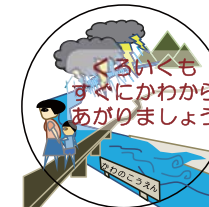
解説：気象庁はこれまで、大雨、地震、津波、高潮などにより重大な災害の起こるおそれがある時に、警報を発表して警戒を呼びかけていました。これに加え、今後は、この警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。特別警報が出た場合、お住まいの地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。周囲の状況や市町村から発表される避難指示・避難勧告などの情報に留意し、ただちに命を守るための行動をとってください。（気象庁ホームページ「特別警報」の解説より）



サバQ 5 ゲリラ豪雨でサバイバル

答え：1

解説：都市部の小さな河川では、コンクリート舗装された道路や下水管を伝わって短時間で雨水が川に集まるため、雨が降ってから増水するまでの時間が非常に短いです。雷が起こる場所と雨が強い場所は必ずしも一致しません。また、橋の下で雨宿りすることはたいへん危険です。いざ増水に気がついたときには思うように身動きがとれず、近くの階段までたどり着くことが困難です。まずは、「川から上がる」ことが身を守るために大切なことです。その後、周りの人と呼びかけあいながら、気象の注意報・警報や、雨雲レーダーで現在とこれからの気象予報を確認しましょう。



サバQ 自分で作って サバイバル

サバQ 10 揺れに備えてサバイバル

答え：2

解説：地震時に死なないことが最優先です。家の中にいる時に家具の転倒により下敷きになって死んでしまえば、懐中電灯も食料も持ち出し袋も役に立ちません。家具の固定のみならず、家の耐震補強も大切です。



サバQ 9 活断層を知ってサバイバル

答え：2

解説：地震の揺れの大きさは、活断層に近いかわるかよりも、むしろその土地の地盤の影響を大きく受けます。平野や盆地のまん中の平らな土地には厚く軟弱な土砂が堆積しているため、地震の揺れは大きくなります。京都や大阪は周囲を山に囲まれた盆地になっており、山地と平野の境目には活断層があります。活断層が大地震を起こすたびに山側は高くなり、平野側は低くなるという変動を繰り返してきました。低くなった場所には川が運んできた土砂が溜まって平らな平野や盆地になりました。



近畿地方の大きな地形はこうした活断層の動き、すなわち地震が作ってきたものなのです。人の記録に無いからといって、今後も地震を起こさないとは言えません。活断層の調査は、地質学的、考古学的方法で人の記録の残っていない過去まで遡って行う必要があります。